

【ファイバースノウ・はねうもち・福井県大3号】

～ 更なる収量アップを目指して！！ ～

- 早生品種跡地等の播種条件が良い圃場を選定！！
- 稲刈取り直後からの排水対策！！（圃場準備が重要）



早生品種等の跡地を選定し、早めに「溝掘り」や「補助暗渠」を行い、圃場を乾かしましょう。「溝掘り」の目的＝「雨水が地面にしみ込む前に圃場外に流し去る」そのため、「排水口側」が「水口側」よりも低くなるように溝を施工しましょう。

（排水不良の原因）

- 機械作業の効率を優先（中溝の施工不足）
- 圃場の排水性を過信（中溝・補助暗渠の施工不足）



- 想定外の降雨に耐える、圃場づくり。ポイントは表面排水（雨水を速やかに排水させる）

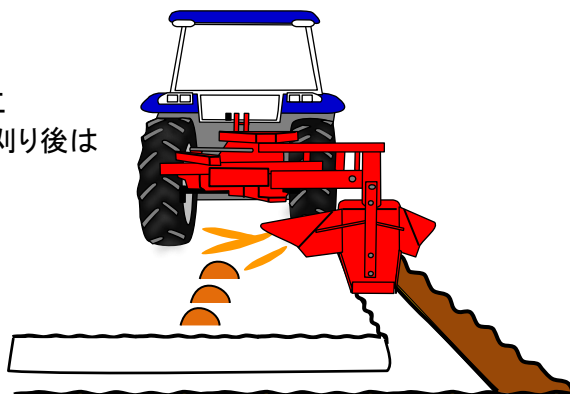
排水対策のポイント

① 額縁排水

額縁（圃場周囲）排水溝の施工

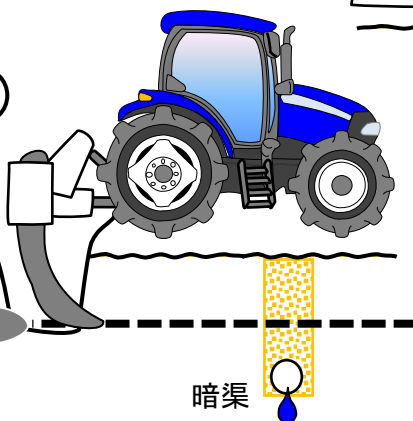
- 圃場の状態を確認し、稲刈り後は早めに設置する。
- 深さ：25cm以上

- 額縁排水溝の施工後は、速やかに排水口に接続する。



② 補助暗渠（サブソイラ施工）

- 額縁排水溝を掘った後、排水溝底から引くように施工する。



心土破碎：本暗渠に対して直交方向だけでなく、斜め方向にも設置することで、さらに排水効果が高まります。

- 施工間隔：通常2～4m。排水が悪い圃場は、1.5～2mと狭くする。
- 施工深さ：25～30cm

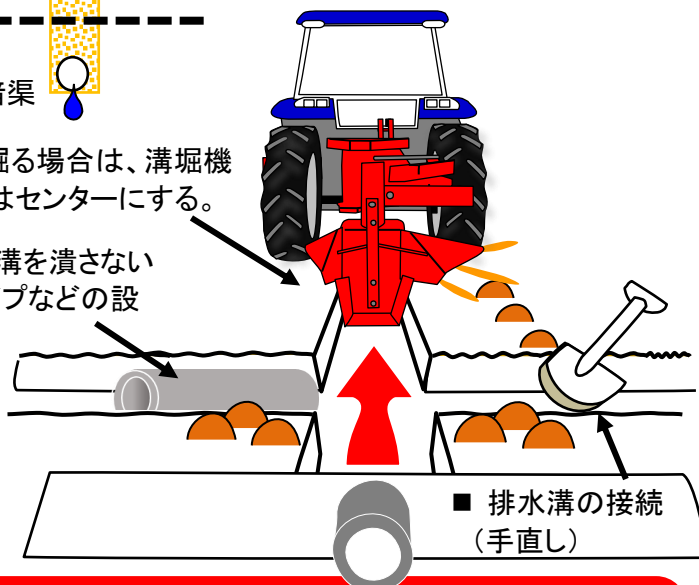
③ 明渠（中溝の施工）

- 中溝を掘る場合は、溝掘機の位置はセンターにする。

- 先に施工した溝を潰さないよう、塩ビパイプなどの設置も有効。

圃場内排水溝の施工

- 深さ：25～30cm。
- 中溝間隔：5～30m。圃場条件、麦の播種作業に応じて設定する。（排水が悪い圃場は、播種1往復の間隔で中溝を施工）
- 排水口からは、必ず中溝を施工する。



- 排水溝の接続（手直し）

排水対策で収量アップを目指しましょう。今回の『麦栽培情報』は福井基幹支店が担当しました。